

平成 28 年度 長崎市自然環境調査報告書：昆虫類

長崎市自然環境調査委員 田 中 清

《平成 28 年 4 月～平成 29 年 1 月》

今年度は次の 3 点を目標にして昆虫相の調査を行いました。

1. 長崎市レッドリストの改訂に関する基礎データを得る。これをもとにリストを完成させる。
2. 長崎市に生息する昆虫に関する基礎資料を集める。
3. 無人島（今年は野島）の昆虫の生息状況を把握する。

1. 市内の貴重種の現状

- (1) 貴重種の記録がある地域を調査しても環境が変わっており、まったく確認できなかった種（地点）が結構ありました。
- (2) 湿地やため池など水辺に生息する昆虫の中には、市内で初めて確認された貴重種が多く、それらをリストに追加しました。
- (3) 貴重種といわれていた種の中には、市内に広く分布している種もわかり、実情に合わせて、ランクを下げたり削除をおこなったりしました。
- (4) 今年は市内でハッチョウトンボをまったく確認できませんでした。今後を注意深く観察する必要があると考えます。
- (5) トビイロカメムシ（25 年ぶり）とヒサゴクサキリの新しい生息地を確認しました。
- (6) 岩屋山から新種のカスミカメムシが記載されたのでリストに追加しました。
これらをもとに、現在の 96 種から約 20 種を削除し、新たに約 50 種を追加して 128 種とし、種ごとにランクも見直しました。

2. 長崎市の昆虫について

オオキンカメムシの越冬地とアカギカメムシの繁殖地を新たに発見しました。昨年確認したスジグロシロチョウは、まだ長崎半島へは拡大していないようです。また、昨年発見したスジベニボタルは、今のところ市内の生息地は 1 か所ですが、大瀬戸町で新たに 2 か所を確認しました。

式見牧場跡地（現在のあぐりの丘とその周辺）の調査報告書から 25 年が経過している今、周辺には二次林やトビイロカメムシの 1 種（現在も学名は付いていない）の記録もあることから、現在の状況を把握するため、1 年間の調査を行うことにしました。平成 29 年 1 月から調査許可が得られましたので、早速 8 日と 15 日に調査を実施し、ジャノメチョウ（幼虫）、ナガサキトゲヒサゴミムシダマシなどの貴重種が確認されました。このことから、今後の調査が楽しみです。

3. 今年度は蚊焼沖にある野島の昆虫を調査しました。

5月28日に調査を行いました。曇り時々雨というあいにくの天候でした。それでも、対岸からの距離が短いので、チョウやハチなどの往来を確認できました。また、砂浜では、海浜性のゴミムシ、ゾウムシ、ハネカクシ、エンマムシ、カゲロウ、カネタタキなど101種の昆虫が確認されました。それらは対岸の蚊焼や岳路の海浜に見られる昆虫と同じでした。

4. 以下に特徴的な種をいくつか紹介しておきます。

- ①アカギカメムシ（市民の森で繁殖している）〈新リスト EN〉
- ②オオキンカメムシ（樺島燈台より先で集団越冬している）〈新リスト EN〉
- ③トビイロカメムシ（三重田に生息している）〈新リスト EN〉
- ④ソデフリカスミカメ（岩屋山に生息し、テンナンショウ属の葉につく）〈新リスト EN〉
- ⑤アシビロヘリカメムシ（本来は南西諸島に分布する 市内で初めて確認された）
- ⑥スジグロシロチョウ（北部の林縁部に生息している 市内で分布を拡大する可能性がある）
- ⑦ヒメボタル（湿った林床に局所的に生息している）〈新リスト EN〉
- ⑧ヒサゴクサキリ（三重田と西海市大島で確認した）〈新リスト EN〉



アサギカメムシ



オオキンカメムシ



トビイロカメムシ



ソデフリカスミカメ



アシビロヘリカメムシ



スジグロシロチョウ



ヒメボタル



ヒサゴクサキリ